

生殖医療の現在

特集にあたって……………	慶應義塾大学名誉教授	吉村 泰典
わが国の生殖補助医療の現状		
……………国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター不妊治療科医長		齊藤 英和
タイムラプスによる胚の評価……………	ミオ・ファティリティ・クリニック院長	見尾 保幸
着床前遺伝子診断とスクリーニング……………	慶應義塾大学産婦人科学准教授	末岡 浩
卵子および卵巣組織の凍結……………	埼玉医科大学総合医療センター産婦人科教授	高井 泰
卵巣組織の凍結		
……………	横浜市立大学医学群分子生命医科学系列プロテオーム科学(生命医科学)教授	小川 毅彦
多能性幹細胞からの生殖細胞分化		
……………	九州大学大学院医学研究院ヒトゲノム幹細胞医学分野教授	林 克彦
子宮移植……………	慶應義塾大学産婦人科学講師	阪埜 浩司
生殖補助医療とインプリメンティング予防		
……………	東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター情報遺伝学分野教授	有馬 隆博
生殖補助医療によって生まれた子どもの長期予後……………	東京医科大学産婦人科教授	久慈 直昭
生殖医療と生命倫理……………	埼玉医科大学総合医療センター産婦人科教授	石原 理

編集後記

最初とされる外科手術には諸説あり、その時期は紀元前3000年頃ともさらに前ともいわれるが、常に革命的な治療とみられたのではないだろうか。19世紀以降外科手術が治療法の主力に加わり、近年では内視鏡外科手術が急速な進歩を続けている。

今号の特集は「内視鏡外科手術の現状と問題点」とし、日本赤十字社医療センター(本誌編集アドバイザー)の幕内雅敏先生にご企画いただいた。

内視鏡外科手術は体内の検査から始まり、それは

1805年にドイツのBozziniが喉や尿道などを観察したのが最初とされるが、その後約2世紀の間に発展しながら各領域に広がり、施行数は増え続けている。加えて、ロボット支援手術も広がりを見せている。

内視鏡外科手術では、優れた整容性や痛みの少なさ、在院日数の短縮はもちろん、操作面では拡大視効果など、利点は大きいという。その一方で手技の難しさや、医療経済面の問題など、重要な課題が認識されている。本特集では、現状が整理され、課題の克服等も含め、今後に向かう内容となっている。(Y)

Pharma Medica

ファルマ

メディカ

Vol.34 No.3 2016.3

2016年3月20日発行

定 価 (本体1,700円+税:送料実費)

年間購読 (本体20,400円+税:送料当社負担)

発行者 松岡 光明

発行所 **メデカルレビュー社**

〒541-0046 大阪市中央区平野町3-2-8 淀屋橋MIビル
TEL 06-6223-1468(代)

Pharma Medica編集部 TEL 06-6223-1556

販売部 TEL 03-3835-3049 FAX 03-3835-3075
e-mail sale@m-review.co.jp

〒113-0034 東京都文京区湯島3-19-11 湯島ファーストビル
TEL 03-3835-3041(代)

振替口座 大阪6-307302

http://www.m-review.co.jp

印刷 第一印刷出版株式会社

広告取扱店 メディックスエージェンシー TEL 080-5421-3501

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)・上映・譲渡に関する許諾権は(株)メデカルレビュー社が保有しています。

・**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

・本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(社)出版者著作権管理機構(TEL 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

・乱丁・落丁の際はお取り替えいたします。